

オノマトペによる共感覚比喩が理解しやすいのはなぜか

1. 研究背景と本研究の目的

日本語のオノマトペの中には擬音語擬態語両域で機能するオノマトペが多数存在する。大澤(2007)は、両域で機能するオノマトペは、通時的に擬音語から擬態語へと派生したものであるとしている。例えば「さらさら」は、葉ずれの音を表していた擬音語が、潤いがない様子を表す擬態語へと派生したとしている。オノマトペでは聴覚（擬音語）からその他の感覚（擬態語）への共感覚比喩が働いていると言える。

共感覚比喩については、Ullmann(1957)や Williams(1976)等が感覚の転移に一樣の方向性があるとしており、この説は「共感覚比喩の一方方向性仮説」と呼ばれている。この仮説では、例えば触覚→聴覚（例：なめらかな音）は理解でき、聴覚→触覚（例：響く肌触り）は理解しにくい（山梨，1988）とされるが、先述のオノマトペの通時的な派生の方向は、共感覚比喩の一方方向性仮説に逆行している。坂本(2009)はこの逆行の理由として、「形容詞よりもオノマトペの方が具体的場面を想起しやすいため、複数の感覚を同時に感じ、そこから感覚の転用が起こっているのではないか」としている。しかしこの説は、認知実験では実証されていない。また、オノマトペの感覚の転用の方向性について共時的な研究はされていない。

そこで本研究では、認知実験によって、オノマトペによる共感覚比喩にどのような転用関係がみられるのかを探った。さらに、形容詞による共感覚比喩（例：明るい手触り）とオノマトペによる共感覚比喩（例：きらきらした手触り）との間で、具体的なものの想起のしやすさを比較した。

2. 研究方法

被験者 90 人に対してアンケート調査を行った。具体的には“感覚形容詞 14 語×名詞 4 語＝56 語”の表現（以降「形容詞共感覚比喩」と呼ぶ）と“感覚形容詞と同義のオノマトペ 42 語×名詞 4 語＝168 語”の表現（以降「オノマトペ共感覚比喩」と呼ぶ）について、理解できるかどうかを、7 段階 SD 法で回答してもらった（非常に理解できる：7～どちらともいえない：4～非常に理解できない：1）。さらに、各表現についてどのようなものが想起されるかを自由記述で回答してもらった。

3. 結果

まず、形容詞共感覚比喩とオノマトペ共感覚比喩について、全表現の理解度平均を比較した。結果を表 1 に示す。t 検定を行った結果、オノマトペの方が有意に理解度が高かった ($t(6718)=5.21, p<.01$)。

表 1 : 理解度平均

	標本数	理解度平均値
形容詞	1680	4. 2208
オノマトペ	5040	4. 4994

次に、形容詞共感覚比喻とオノマトペ共感覚比喻それぞれの理解可能な方向性について比較した。7 段階 SD 法での理解度平均 4. 5 以上の方向に矢印を引いた結果をそれぞれ図 1 と図 2 に示す。オノマトペの方が理解しやすい比喻の方向が多いことがわかる。



図 1 : 形容詞共感覚比喻における、理解度平均 4. 5 以上の方向性

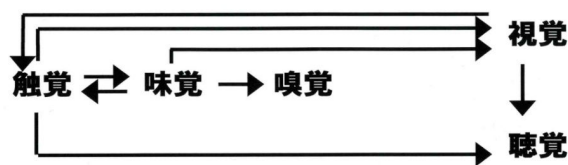


図 2 : オノマトペ共感覚比喻における、理解度平均 4. 5 以上の方向性

次に、オノマトペ共感覚比喻の方が理解しやすい理由を探るため、実験から得た全想起語を、同じ回答をした人数が 9 人以下の想起語と 10 人以上の想起語とに分類し、形容詞共感覚比喻の 10 人以上の想起語の比率と、オノマトペ共感覚比喻の 10 人以上の想起語の比率の差を比較した（結果は表 2 を参照のこと）。カイ二乗検定により、オノマトペの方が、10 人以上が共通の想起語を回答した個数が有意に多かった（ $\chi^2(1, N=8281)=7. 21, p<. 01$ ）。このことから、オノマトペでは共通のものが想起されやすいことがわかった。

表 2 : 異口同音人数の比較

		同じ回答をした人数		合計	10 人以上/合計 ×100
		9 人以下	10 人以上		
全回答個数	形容詞	2041	33	2074	1. 59
	オノマトペ	6044	163	6207	2. 63
合計		8085	196	8281	

次に、具体的なものの想像のしやすさを比較するため、被験者の全回答を目視で確認し、回答を「語」と「句・節・文」に分類した。そして、形容詞共感覚比喻の想起語における「句・節・文」での回答数の比率と、オノマトペ共感覚比喻の想起語における「句・節・

文」での回答数の比率の差を比較した（結果は表 3 を参照のこと）。カイ二乗検定により、オノマトペの方が、「句・節・文」の比率が有意に多かった（ $\chi^2(1, N=6816)=10.79$, $p<.01$ ）。このことから、オノマトペの方が、1 語では表現しきれない具体的なものを想像しやすいということが示された。

表 3 「語」「句・節・文」の比較

		回答の単位		合計	句・節・文/合計 ×100
		語	句・節・文		
全回答種類数	形容詞	1115	602	1717	35.06
	オノマトペ	3084	2015	5099	39.52
合計		4199	2617	6816	

4. 追加実験と結論

管楽器に詳しい学生 5 人に、管楽器の音色に関する表現方法についてインタビュー形式の追加実験を行った。佐伯(2009)で同じ形容詞で解説されている 2 つの楽器（例：明るい音色→フルートとトランペット）について、それぞれの楽器の特徴を表すオノマトペを選択させたところ、微妙なニュアンスの違いを表す異なるオノマトペが選択された（明るい音色の例；フルート→きらきらした音色、トランペット→ざらざらした音色）。

本研究によって、オノマトペによる共感覚比喩は、具体的で特定のイメージを共通認識として想起させやすいということが実証された。

主要参考文献

- [1] Schourup, L. (1993). 日本語の書きことば・話しことばにおけるオノマトペの分布について. 筧 寿雄・田守 育啓 (編)『オノマトピア—擬音・擬態語の楽園』, 77-100. 東京：勁草書房.
- [2] Ullmann, S. (1957). *The principles of semantics*. Oxford:Blackwell.
- [3] Williams, J. M. (1976). Synesthetic adjective:A possible law of semantic change. *Language*, 52 (2), 461-478.
- [4] 大澤(伊藤) 理英(2007). オノマトペの意味拡張の事例に基づく共感覚的比喩表現の一方向性における反例と考察. 『日本認知言語学会論文集』, 7, 365-374.
- [5] 筧 寿雄・田守 育啓(1993). 『オノマトピア—擬音・擬態語の楽園』. 東京：勁草書房.
- [6] 楠見 孝(1995). 『比喩の処理過程と意味構造』. 東京：風間書房.
- [7] 佐伯 茂樹(2009). 『カラー図解 楽器から見る 吹奏楽の世界』. 東京:河出書房新社.
- [8] 坂本 真樹(2009). 小学生の作文にみられるオノマトペ分析による共感覚比喩一方向性仮説再考. 『日本認知言語学会第 10 回全国大会ハンドブック』, 155-158.

- [9] 白輪 祐也・坂本 真樹(2003). 共感覚表現のデータベース作成とそれに基づく一方向性仮説再考. 『日本言語学会第 126 回大会論文集』, 30-35.
- [10] 瀬戸 賢一(2003). 共感覚表現-「一方向性の仮説」を反証する. 『JELS』, 20, 149-158.
- [11] 武田 みゆき(2001). 中国語にみる共感覚比喩についての一考察:擬音語の擬態語化をめぐる. 『ことばの科学』, 14, 107-118.
- [12] 田守 育啓・Lawrence Schourup(1999). 『オノマトペ -形態と意味-』. 東京:くろしお出版
- [13] 飛田 良文・浅田 秀子(2002). 『擬音語擬態語用法辞典』. 東京:東京堂出版.
- [14] 武藤 彩加(2003). 味ことばの擬音語・擬態語. 瀬戸 賢一(編)『ことばは味を超える -美味しい表現の探求』, 241-300. 東京:海鳴社.
- [15] 山口 翼(2003). 『日本語大シソーラス-類語検索大辞典-』. 東京:大修館書店.
- [16] 山梨 正明(1988). 『比喩と理解』. 東京:東京大学出版会.

文字数・・・1946 字（ただし，図表と参考文献を除く）